

## 人のくらしと身近な自然

昔の人々は地形や自然資源をうまく利用してくらししてきました。そうした人の営みが棚田や用水路、鎮守の森などをつくりあげました。こうした身近な風景には、土地の風土や歴史がつみ重なってつくられた独特の雰囲気があります。だれの心の中にも残っているなつかしい風景です。そして身のまわりの風景をとり囲むようにして、いつも山や川が存在しています。高いビルや堤防がふえ、山や川を感じられる場所が少なくなりましたが、橋を渡るときに眼にはいる川の流れに、郊外を自動車で走るときに見える稜線の向こうに、とてもすがすがしい思いがよみがえります。



山の中の集落と農地

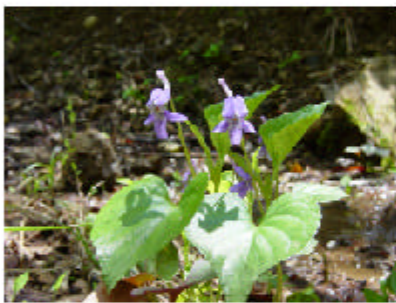


棚田と雑木林



棚田のなごり

風景のなかに眼を凝らしてみると、それまで風景の中にとけ込んでいた、たくさんの生きものがみえてきます。市街地の中心部でも見上げると大きな鳥が飛んでいます。ちょっとした草地の中にも、さまざまな昆虫が息づいています。水の中にもいろいろな生きものがひそんでいます。



林縁に咲くナガハシスミレ



林床のチゴリの子群生



早春に花を咲かせるカタクリ

こうした身近な生きもののことは、人との関係を抜きにして考えることはできません。人がつくったため池にはジュンサイやヒルムシロなどの水草が繁茂し、モリアオガエルやクロサンショウオがすみつきます。下草刈りがされている雑木林には、カタクリの花が咲き誇ります。田んぼの水入れに合わせて一斉にシュレーゲルアオガエルが鳴きだします。田んぼから命をもらったカエルたちは、雑木林や人工林に営巣する猛禽類のサシバにその命をつなぎます。



雛たちのためにミサゴは魚を運ぶ



ハチクマの雛も秋には日本を旅立つ



モリアオガエルは樹の上で産卵する

人がくらしの中からつくり上げたなつかしい風景、そしてそのまわりの山や川、そこにすむ草木や動物たち、これらすべてが身近な自然です。営々とした人のいとなみが自然を静かに改造し、そこにまた生きものが適応してすみつきます。身近な自然とは、多くの命の育まれる場所です。豊かな生態系が身近な自然の中に息づいています。

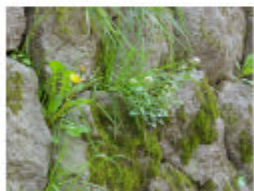
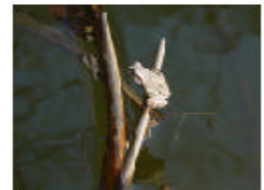
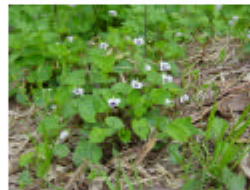
## 身近な自然とビオトープ

深い森やゆったりと流れる川、細い小川や田んぼのあぜ、自然にはさまざまな大きさや形があります。そして、大きな山塊から、小さな水辺まで、それぞれの自然には、いつも生きものがすみついています。



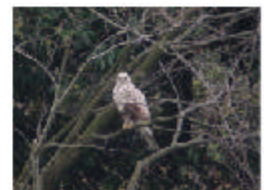
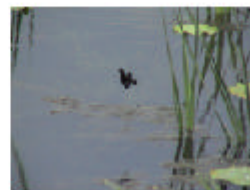
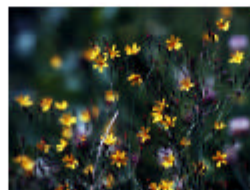
斜面を切り開いてつくられた棚田や谷間の谷内田（やちだ）。田んぼには、カエルやヒルやドジョウが、ため池には水草やゲンゴロウが、あぜにはタネツケバナやキンボウゲが、水を引くための細流には、トビケラやオニヤンマのヤゴが生息しています。

山から下ってきた水は、太い川となって山すそを蛇行して流れます。そこには瀬と淵があり、瀬にはカゲロウやカワゲラが、淵にはヤマメやウグイが潜んでいます。もう少し下流にいくと、中州や河辺林が現れます。野鳥たちが翼を休めています。



街の中にもよく見るとたくさんの小さな自然があり、生きものがすみついています。台地の斜面には照葉樹などの林があり、エナガやシジュウカラがやってきます。公園の中の小さな草地、用水路そいの石垣、住宅地の中にぽつんと残った水田や畑には、タンポポやハコベなどが花を咲かせています。

河口付近には、砂州やヨシ原ができます。オオヨシキリやチュウビ、ツバメなどの重要な生息環境です。海岸林や砂浜は渡り鳥の中継地です。静かな流れの川には、コイやフナが潜んでいます。用水路にはメダカがみられます。身近な自然のひとつひとつに生きものがすんでいます。



このように、さまざまな身近な自然の単位には生きものがすんでいます。これらはすべて大切な自然のビオトープです。そして、いくつものビオトープがつながって、多くの生きものがすめる環境が作られています。金沢市とその周辺にはどのような身近な自然=ビオトープがあるかみてみましょう。